

ぶつねはんす  
仏涅槃図

種 別	小松市指定文化財 絵画
指定年月日	昭和40年11月3日
所 在 地	寺町（建聖寺）

この涅槃図は、曹洞宗永龍山建聖寺に所蔵され、縦 220 センチメートル、横 170 センチメートルの大きなものである。釈迦の入滅の日である旧暦2月15日に行われる涅槃会では、本尊として祀られている。

釈迦が跋提河<sup>ぼだいが</sup>のほとりに入滅する様子が描かれ、沙羅双樹<sup>さらそうじゅ</sup>に囲まれた宝床の上に、西側を向いて横たわる釈迦と、その周囲で嘆き悲しむ諸菩薩や天<sup>てん</sup><sup>(1)</sup>などの諸衆、動物などが描かれている。

この幅は、前田利常の十二子・亀松が5歳で早逝したことを悼み、乳母や侍女たちが慶安3年（1650）8月の亀松の一周忌にあわせて寄進したものである。幅の裏には寄進者である乳母や侍女の名前と寄進した年月日が書かれている。

作者は不明であるが、鎌倉期の図様を基にした緻密な描写と鮮やかな色彩など、江戸初期の仏画として貴重なものである。

(1) 天：仏教成立以前からインドにあったヒンズー教・バラモン教の神々を仏教にとり入れ、護法神としたもの。



※元禄9年(1696)修復時に記された裏書は、史料として有効。